

「子どもの楽器と思われがちですが、可能性を秘めた楽器です」
全国でも珍しい鍵盤ハーモニカのプロの専門奏者であり、その授業を名古屋音楽大で担当する客員教授だ。首からつり下げ、両手で鍵盤を押さえる独特の演奏スタイル。「変幻自在の音色を知って」と、小学校への出前コンサートやライブハウスでの演奏も精力的にこなす。

中学二年で作曲家を志し、東京



この人

芸術大作曲科に進んだが、「自らの才能に疑問」を覚えて挫折。中退後、ピアノと電子オルガンの奏者になった。

三十五年前、京都でふらりと訪れた飲食店に偶然、この楽器が置いてあり、音楽仲間と即興演奏し、のめり込んだ。「歌うような息遣いで音を表現できる」と自身の新曲の録音で使ったのを機にプロ転向、以来十二年がたつ。

業界初といわれる入門者と指導者向けの教則本を、十一月に刊行。ホース状の唄口で息の強弱を学ぶ曲や、押さえる鍵盤と歌詞が音階のミ・ソ・ラ…と同じ「みそラーメン」の歌などを載せ、楽しみながら学べるように工夫した。夢は世界一の演奏者で「死ぬまで練習するだけです」。(美細津仁志)